

後期基本計画

重点目標 4

まちへの誇りの醸成とブランド力の向上

政策 1 地域の魅力の創造「人の流れを呼び込む魅力的な暮らしの実現」

政策 2 地域の魅力の創造「伊豆市に住むことの愛着や誇りの醸成」

重点目標 4

まちへの誇りの醸成とブランド力の向上

基本方針

多様な主体によるまちづくり活動などによって活気あるまちづくりが実践されるとともに、地域活動を担う人材の育成によって、関わりやつながりを大切にするまちづくりを目指します。

また、ふるさとの魅力を学び、「つながり」や「地域の絆」を育むことで、豊かな自然や景観、歴史、文化が市民の手によって受け継がれ、いつまでも住み続けたいと思える郷土への愛着につなげていくことを目指します。

政策イメージ

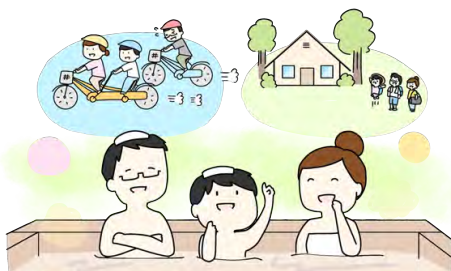
人が集い、つながり、まちづくりに関わりたいまち

人の流れを呼び込む魅力的な暮らしの実現

市民の生き生きとした生活が
さらなる人の流れを呼び込む
好循環の構築



人をつなぐプラットフォームの創出
ヒト・モノ・コトの発掘
伊豆市ファンの創出
新しい生活様式(テレワーク・二拠点居住)



伊豆市に住むことの愛着や誇りの醸成

市民が誇りを持ち、
人々を惹きつけ、
暮らしてみたいと思われる地域の実現



文化・芸術に親しむ
伊豆っ子宣言
伊豆市を学ぶたくさんの機会
図書館事業と子育て事業の連携



政策 1 地域の魅力の創造「人の流れを呼び込む魅力的な暮らしの実現」

市民が伊豆市に住むことに誇りを持って生き生きと生活を営み、その輝きがさらなる人の流れを呼び込む好循環を生み出すため、様々なまちづくりに関する人の連携・協力を促進し、人と人とのつながりによる相乗効果を高めるための取組を進めていきます。

政策目標

◎ 市民の生き生きとした生活がさらなる人の流れを呼び込む好循環の構築

具体的
イメージ

移住定住者数 ▶ 増加

R2 基準値：伊豆市若者定住促進補助金利用者数 62 人

魅力的なヒト・モノ・コトの発掘数 ▶ 増加

R2 基準値：0 件

政策 2 地域の魅力の創造「伊豆市に住むことの愛着や誇りの醸成」

本市の文化・芸術を地域の誇り、魅力として捉え、新たな交流やにぎわいの創出につなげるため、文化・芸術振興や伝統文化の次代への継承を推進するとともに、ふるさとの魅力を学ぶ機会を創出することで、市民の郷土に対する愛着や誇りを醸成する取組を進めていきます。

政策目標

◎ 市民が誇りを持ち、人々を惹きつけ、暮らしてみたいと思われる地域の実現

具体的
イメージ

伊豆市への愛着度 ▶ 向上

R2 基準値：75.6%（令和 2 年度市民アンケート結果より）

住み続けたいと思う人の割合 ▶ 向上

R2 基準値：73.7%（令和 2 年度市民アンケート結果より）

政策 1 地域の魅力の創造「人の流れを呼び込む魅力的な暮らしの実現」

施策 1 まちづくりの多様な担い手の育成



本市の現状

- 😊 魅力につながるおもしろいことや、まちの活力につながる活動をしている人材が多い
- 😊 SNSなどで市の魅力を発信してくれるサポーターがいる
- 😞 市民同士や市外の人（伊豆市と関わりたい人など）と交流できるきっかけや場がない
- 😞 人口減少と高齢化により、地域福祉や地域防災、地域まちづくりなど様々な面で未来に向けて担い手育成を徐々に進めていく必要がある

市民と共有したいありたい姿

- ◎ 伊豆市を好きな人がつながり、多様なアクションを行うことで、まちの活力や魅力 UP につながっている
- 多様な主体が自発的に地域課題の解決に向けた取組を展開している
- 市民全体がまちづくりの担い手である意識を持ち、お互いに連携しながら地域づくりに取り組んでいる



改善

より良く

多様な担い手の育成に向けた 2 つの作戦

作戦 1

人をつなぐプラットフォームを創出し、人づくりを行います

作戦 2

地域づくりのためのヒト・モノ・コトの発掘を行います



ありたい姿を実現するための作戦ラインナップ

※主な取組についての具体的内容は、資料編 128 ページに記述しています
 ※「▶」は各部局における重点事業

作戦 1 人をつなぐプラットフォームの創出

地域で活躍する人材を育てるため、人づくりに取り組む人や団体のハブとなる機能を有する“Izu Connect”※1 という場を構築し、市民による様々なまちづくり活動を支援するとともに、地域コミュニティの核づくりにつなげます。

【主な担当課】

地域づくり課 / 企画財政課 / 総務課

◎主な取組

▶“Izu Connect”の構築と活用

未来塾の継続と卒業生の支援

まちづくりや愛着醸成のための職員研修の継続

作戦 2 地域づくりのための“ヒト・モノ・コト”の発掘

伊豆市の魅力の向上のため、市内のまちづくり人材を始め、移住者、関係人口※2 の発掘のための営業活動を行います。また、発掘した“ヒト・モノ・コト”を積極的に支援し、持続的かつ主体的な活動につなげていきます。

【主な担当課】

地域づくり課

◎主な取組

“ヒト・モノ・コト”の発掘のための営業活動

相談窓口のワンストップ化

※1 Izu Connect

市内人材の発掘や、「関係人口」の獲得に向けて、伊豆市を楽しみ、つながる場を創出するとともに、情報発信を行うコミュニティとして、地域の活性化につなげていくための取組。

※2 関係人口

移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる人々。

政策 1 地域の魅力の創造「人の流れを呼び込む魅力的な暮らしの実現」

施策 2 新たな交流人口の創出

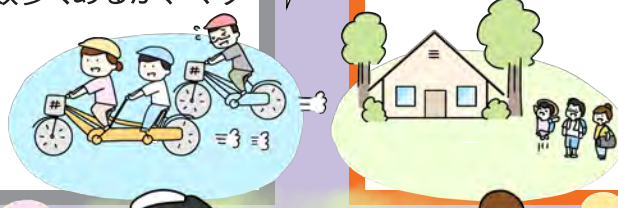


本市の現状

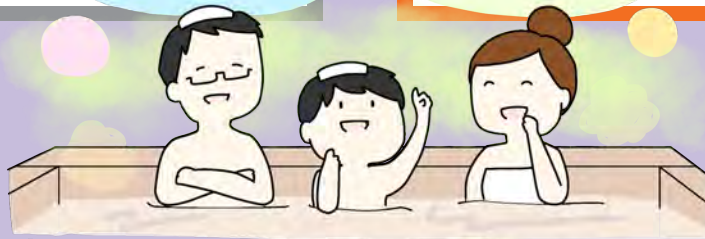
- 😊 魅力につながるおもしろいことや、まちの活力につながる活動をしている人材が多い（再掲）
- 😊 新しい生活様式に対応した働き方、暮らし方（テレワーク・二拠点居住※1等）が注目されている
- 😞 市民同士や外の人（伊豆市と関わりたい人など）と交流できるきっかけや場がない（再掲）
- 😞 空き家バンク制度※2を進めており、空き家・空き別荘は数多くあるが、マッチングに課題がある

市民と共有したいありたい姿

- ◎ 「Izu Connect」やふるさと納税などを活用し、本市の豊かさや魅力を発信・共有することにより、本市のファンや関係人口が増え、将来の移住・定住につながっている
- テレワークや二拠点居住など多様な働き方で自分らしいライフスタイルが本市で実現できる



改善



より良く



新たな交流人口創出に向けた2つの作戦

作戦 1

関係人口を創出する
取組を
行います

作戦 2

空き家・空き別荘の
有効活用を
行います



ありたい姿を実現するための作戦ラインナップ

※主な取組についての具体的内容は、資料編 129 ページに記述しています
 ※「▶」は各部局における重点事業

作戦 1 将来の移住・定住につながる関係人口の創出

市内にルーツのある市外在住の方や、交流を望む市外の方に対し、SNS などを活用した情報発信により“伊豆市ファン”を創出し、まちづくり活動への側面支援や将来的な移住・定住につなげていきます。

【主な担当課】

地域づくり課 / 企画財政課

◎主な取組

“Izu Connect” を場としたマッチング支援

ふるさと納税や SNS を活用した関わりの創出

作戦 2 空き家・空き別荘の有効活用

テレワークを実施する企業の増加を契機として、空き家や空き別荘を活用した二拠点居住などの取組を進めるため、空き家バンク登録者や契約成立件数を増やすことなどにより、新たな交流人口の増加に向けた取組を推進します。

【主な担当課】

地域づくり課 / 都市計画課 / 企画財政課

◎主な取組

▶ 空き別荘などの活用によるテレワークや二拠点居住の推進

▶ 空き家バンクの活性化

片づけやリフォーム補助による空き家活用の推進（再掲）

※1 空き家バンク制度

空き家の賃貸・売却を希望する所有者からの情報を集約し、空き家の利用・活用を希望する方に紹介する制度。

※2 二拠点居住

普段は都会に暮らす人が週末や一年の半分など一定期間を地方で過ごすこと。

政策 2 地域の魅力の創造「伊豆市に住むことの愛着や誇りの醸成」

施策 1 伊豆市が誇る文化・芸術資源の活用



本市の現状

- 😊 市民アンケートでの「地域に愛着がある」と回答した人の割合は、R2実績で75.6%となっている
- 😊 「文学の郷構想」※により井上靖ゆかりの「上の家」の改修整備や、旧宮林署跡地の公園整備が進行中
- 😞 「文学の郷」の運営については、地域の交流拠点となるよう文化資源を活用したソフト事業に取り組んでいく必要がある
- 😞 美術館建設においては、維持管理にかかる経費や地域への波及効果の検討が課題

市民と共有したいありたい姿

- ◎ 文学を始めとした歴史・文化資源が市民の誇りとなって自慢されている
- 「文学の郷」が地域の交流拠点として形成され、担い手の活躍によりにぎわいであふれている
- 本市の歴史・文化資源が魅力的に映る取組が行われている

改善



より良く



文化・芸術資源の活用に向けた作戦

作戦

歴史・文化資源を
有効に活用する
取組を行います



ありたい姿を実現するための作戦ラインナップ

※主な取組についての具体的内容は、資料編 130 ページに記述しています
 ※「▶」は各部局における重点事業

作戦 歴史・文化資源の有効活用

市民が文化・芸術に親しむ機会を提供し、豊かな感性や創造性を育む取組を推進するとともに、子どもたちが本物の文化・芸術に出会う機会を拡充することにより、地域への愛着や生きる力を育みます。

◎主な取組

▶“文学の郷”の拠点化

文学の語り部やガイドの育成

美術館構想の実現化

生きる力を育む“実学教育”の支援（再掲）

【主な担当課】

社会教育課／学校教育課／観光商工課／企画財政課



「私は梯子段の中途に腰をおろして…」文豪 川端康成
 提供：湯本館

※文学の郷構想

湯ヶ島地区において、地域資源である文学をテーマとしたにぎわいづくりを推進することで、“文学の郷”として住民と観光客の交流による地域活性化を目指した構想。

政策 2 地域の魅力の創造「伊豆市に住むことの愛着や誇りの醸成」

施策 2 ふるさとの魅力を学ぶ機会の創出



本市の現状

- 😊 市民アンケートでの「地域に愛着がある」と回答した人の割合は、R2実績で75.6%となっている（再掲）
- 😊 小中学生は総合的な学習に一生懸命取り組んでいる
- 😊 図書館と子育ての連携が進み、本市独自の取組を展開している
- 😊 青少年の健全な育成を目的とした「伊豆っ子宣言*1」について、見える化する取組を進めている

市民と共有したいありたい姿

- ◎ 小さな頃からふるさとのよさを学ぶことにより、地域を知り、地域を好きになる子どもが増える
- 地域の魅力や価値を理解・共有し、地域に愛着を持って住み続けたいと思う人が増えている
- 本を通じた子どもの感性を育む環境が形成されている

改善



より良く



ふるさとの魅力を学ぶ機会の創出に向けた2つの作戦

作戦 1

学校・家庭・地域と連携した
伊豆っ子宣言の活用を
行います

作戦 2

子どもの感性を育む図書館
事業と子育て事業との
連携を行います



ありたい姿を実現するための作戦ラインナップ

※主な取組についての具体的内容は、資料編 130 ページに記述しています
 ※「▶」は各部局における重点事業

作戦 1 学校・家庭・地域と連携した伊豆っ子宣言の活用

令和2年11月に制定した伊豆っ子宣言を、学校・家庭・地域と連携した子どもたちの健全育成に役立てるとともに、“ふるさと学級”※2を中心とした社会教育事業、小中学校・高校で実施している総合的な学習（地域学習）などと連携した取組を進めていきます。

【主な担当課】

社会教育課／学校教育課／企画財政課

◎主な取組

▶“ふるさと学級”の充実

資料館と連携した地域を学ぶ場の創出

小中高生の総合的な学習（地域学習）の時間の充実

作戦 2 図書館事業と子育て事業との連携強化

本市独自の取組である図書館事業と子育て事業の連携をさらに深め、本にふれあう機会の創出を図るとともに、子どもの感性を育む取組を進めます。

【主な担当課】

社会教育課／子育て支援課／健康長寿課

◎主な取組

▶“ベビータイム”※3の拡充

幼児検診時などの出張読み聞かせの拡充

生きいきプラザを活用したおはなし会の拡充

※1 伊豆っ子宣言

伊豆市の子どもたち（伊豆っ子）の健全育成の指針とするものであり、個々の資質を高め、愛郷心の醸成を図るべく策定された宣言。

※2 ふるさと学級

市内小学校 4～6年生を対象に、伊豆市ならではの自然や歴史を学ぶ講座を開催することで、子どもたちの愛郷心やふるさとへの誇りを高める取組。

※3 ベビータイム

修善寺図書館において、開館時間の一部を「ベビータイム」として設定し、赤ちゃんや小さな子ども連れの親子が図書館を利用しやすい機会を提供する伊豆市独自の取組。



劇団しろばんば